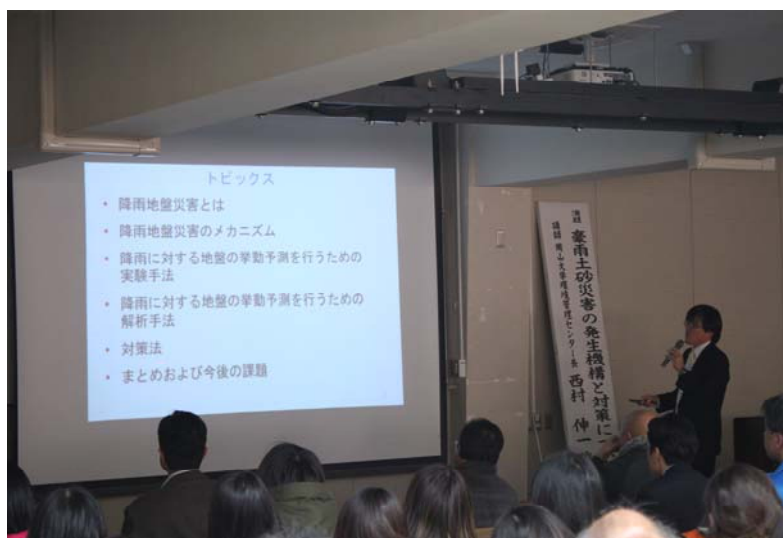




環境学生委員会が、1月17日から毎年大好評の「からだの中からぽかぽか温まるとうがらしウォームビズ企画」を農学部生協食堂で開催しています。全国の企業にご協力いただき、とうがらし商品を種類豊富に揃えることができました。商品がなくなり次第終了になりますので、ご興味のある方はこの機会にぜひお試しください。今季も衣類での体温調節や食べ物の工夫等、無理なく自分に合った方法で、寒さとつきあっていきましょう。



1. 環境講演会2016を開催しました



環境講演会 2016 の受講の様子

平成28年12月12日(月)本学部26番講義室を会場に「信州大学農学部環境講演会2016」を開催しました。参加者は学生、一般、教職員の計166名と多くの方にご参加いただきました。本年度は、岡山大学環境管理センター長の西村伸一教授を講師にお迎えし、「豪雨土砂災害の発生機構と対策について」という演題でご講演いただきました。

近年全国的に被害をもたらしている豪雨災害の発生要因について、写真を使用しながら解りやすくご説明いただきました。降雨量の他に地下水の上昇によっても滑落があることから谷筋は土砂災害が

発生しやすいということや、土砂災害が発生した際の避難場所等、日常における対策についてもお話いただきました。参加者からは、多くの質問が上がり、とても有意義な時間となりました。

ご参加いただきました皆様、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

(EMS事務局)

2. エコプロダクツ2016に出展しました

平成28年12月8日(木)～10日(土)、東京ビッグサイトにて開催された「エコプロダクツ2016」に各キャンパスの環境学生委員会が信州大学ブースとして出展しました。「自転車で電車を動かそう! 体験型プラレール」というタイトルのもと、自転車をこいでミニチュアの電車を動かし、太陽光で発電した時と同じ速度のプラレールと競争をしてみようというワークショップを行いました。ワークショップを体験した来場者に景品として、農学部演習林の間伐材ヒノキを材料に、教育学部の3Dプリンタで信州大学マーク等を印刷した環境学生委員会特製コースターを差し上げ、好評でした。また、パネル展示では各キャンパスの環境学生委員会の活動、環境教育海外研修の報告を展示しました。



信州大学ブースの様子

会場では、様々な企業から環境に配慮した製品や取り組みが紹介されており、エコプロダクツ2016に参加して、様々な

会場では、様々な企業から環境に配慮した製品や取り組みが紹介されており、エコプロダクツ2016に参加して、様々な



環境学生委員が作製した農学部演習林の間伐材を利用した特製コースター

アプローチで環境を考えることができるということを学びました。楽しみながら行うことができる工夫や、仕事の作業効率の向上、経済的に優しいことなど、環境に配慮した活動を気軽に参加しやすくする方法がいくつか見られました。今後、環境学生委員会で、楽しみながら環境について考えることのできる活動や企画を行いたいと考えており、とても参考になりました。また、出展者は大、中、小企業、地方の市町村まで、業種も幅が広く、活動も個性のあるものも多く見られ、刺激的でした。より深く、その活動や取り組み、企業や市町村について知りたいと思い、勉強する意欲が湧きました。

今後、環境学生委員会では、大学内にとどまらず、地域、企業と連携した環境活動を行っていきたいと考えています。より参加したいと思わせるような活動や企画を立てられるように、いいと思った取り組みを実現に近づけられるように頑張っていきたいと思います。（環境学生委員長 難波成恵）

3.シンガポールの教職員に環境学生委員会の活動紹介を行いました

平成29年1月16日から約1週間、日本の廃棄物処理に関する調査のため滞在しているシンガポール工科大デザイン大学の教職員の方3名が本学部を訪問されることを受け、1月17日に環境学生委員会の活動紹介を行いました。環境学生委員の山田実里さん(森林科学科3年生)が、スライドを使用して主な委員会活動等を説明し、質疑応答を行いました。その後、活動のひとつである構内演習林の間伐材を利用したマイ箸作りを体験していただきました。



環境学生委員会の活動紹介の様子



はし作りの様子

同席いただいたシンガポールからの留学生Heng Ming Yuanさん(大学院:機能性食料開発学専攻, 修士課程2年生)は、間伐材にかんなをかけ、箸に色を塗る行程を初めて体験し、「他の留学生とも作ってみたい」と出来上がった箸に満足した様子でした。来訪された方々も、興味を示され、帰国後の参考にしたいと仰っていました。

説明を終えた山田さんは、「海外の方に自分たちの活動を伝える貴重な機会をいただいたが、伝えたいことがうまく伝えられず、もどかしかった。自分たちが行ってきたことを自信をもって伝えていけるように勉強したい」と今後の委員会活動に向けた意気込みを語っていました。（EMS事務局）

農学部環境ニュースに関するご意見・ご質問・投稿記事などがございましたら

EMS事務局：agri-eco@shinshu-u.ac.jpへご連絡ください